

田村市指定有形文化財

え まつじんじゃしゃでん
絵松神社社殿



田村市常葉町新田作字猫内地内に所在する絵松神社は、建徳3（1372）年の創建で、寛延2（1749）年に洞雲山絵松寺と改称して寺籍に転向したと伝えられ、明治の廃仏毀釈の際に再び社格をえて神社となった歴史を有しています。

社殿は18世紀後半ごろの建築と推測されます。仏堂の平面を備えた方三間（間口約5.8間、奥行約5.7間）の堂内は、中央の間口一間、奥行二間を内陣とし、かつては四天柱と来迎柱を立て、奥の来迎壁前には厨子を安置した須弥壇を配していましたが、昭和23（1948）年の改造で、堂内の四天柱を切断し、来迎壁も除去して、本殿の新築接続等がなされたことにより、建築当時の姿は一部失われてしまいました。ただ江戸期に建てられた三間仏堂としては規模が大きく、各部の造作は丁寧で、市内の建築史的にみてすぐれたものです。